

# 沿革

## 1. 前史

### (1) 中島飛行機時代

西暦	月	
1917.	5	中島知久平、群馬県尾島町に飛行機研究所を創設。
	(大正6年)	
	12	飛行機研究所を群馬県太田町に移転。
1918.	4	中島飛行機製作所と改称。
1919.	2	四型6号機(中島の出世機)試飛行大成功。
	4	陸軍から中島式五型複葉機20機初受注(初の日本人設計の量産機となる)。
	10	四型6号機、東京一大阪間第1回懸賞郵便飛行競技に出場、往復6時間58分で優勝。
	12	野球チーム「雄飛倶楽部」結成。
1922.	3	日本初の準金属製機、中島式B-6型「軽銀号」を上野の平和記念東京博覧会に出展、金牌受賞。
1925.	11	東京工場完成、発動機生産開始。
1930.	6	日本初の国産空冷星型9気筒「寿」型試作発動機完成。
	(昭和5年)	
1931.	12	中島飛行機株式会社と改称。資本金600万円。社長 中島喜代一。
1934.	11	太田新工場完成、旧太田工場は「呑竜工場」と改称。
	11	天皇陛下、太田工場ご訪問。
1936.	9	純国産中型高速旅客機AT-2型初飛行に成功。
1937.	-	(海軍)九七式艦上攻撃機、(陸軍)九七式戦闘機制式採用。
1938.	4	武蔵野製作所開設、陸軍発動機生産開始。
	11	増資により資本金5,000万円となる。
1939.	4	中島知久平、政友会第8代総裁に就任。
	-	「栄」発動機制式採用。
1940.	4	小泉製作所開設、海軍機体生産開始。
1941.	2	太田飛行場開設。
	11	多摩製作所開設、海軍発動機専用工場となる。
	12	三鷹研究所起工式挙行。
	-	百式重爆撃機「呑竜」、一式戦闘機「隼」制式採用。
1942.	6	半田製作所開設、海軍機体生産開始。
	11	中島知久平、6発爆撃機「Z機」の基礎計画を策定。
	-	(陸軍)二式戦闘機「鍾馗」、(海軍)二式陸上偵察機、二式水上戦闘機制式採用。
1943.	3	大宮製作所開設、海軍発動機生産開始。
	4	三島製作所開設、海軍機器生産開始。
	11	武蔵野、多摩製作所を統合し、武蔵製作所とし、陸海軍発動機生産を一元化。
	-	艦上攻撃機「天山」、夜間戦闘機「月光」制式採用。
1944.	1	宇都宮製作所開設、陸軍機体生産開始。
	-	艦上攻撃機「彩雲」、四式戦闘機「疾風」、「誉」発動機制式採用。4発陸上攻撃機「連山」試作完成。
1945.	4	「航空機事業国営に関する件」が閣議決定され、中島飛行機は国家管理の「第一軍需工廠」となり、中島喜代一が長官に任命される。
		設立時の規模は、工場数102(疎開工場を含めると500)、敷地3,531万㎡、建物232.3万㎡、機械30,735台、人員25万名。
	-	(陸軍)キ87高々度戦闘機、特殊攻撃機「剣」、(海軍)特殊攻撃機「橘花」(ジェット機)試作完成。
	8月15日	日本、無条件降伏(第2次世界大戦終結)
	8月17日	第一軍需工廠長官に対し、軍需大臣から生産停止命令下る。

### (2) 富士産業時代

西暦	月	
1945.	8	(17日)中島飛行機(株)を富士産業株式会社と改称、定款を改定し平和産業への転換を図る。
	8	中島乙未平が取締役社長に就任。
1946.	6	ラビットスクーター1号車誕生。
	6	大宮工場、船外機エンジン生産開始。
	7	野村清臣が取締役社長に就任。
	12	宇都宮工場、戦災車両の復旧1号車完成。
	12	バス1号車完成。
	-	各工場は次の製品の製造許可を連合軍軍政部に申し出、許可される。
		太田工場(1月) 電機部品、小型モーター、電熱器
		三鷹工場(1月) 占領軍の食器類、トラック部品
		三鷹工場(3月) スクーター
		三島工場(3月) 度量衡器、農機具、時計、小型発動機、バリカン
		宇都宮工場(5月) ミシン、タイプライター、計算機、乳母車
		浜松工場(6月) スクーター
		太田工場(7月) 木造船、客車電車修理
		半田工場(10月) 農機具、トラクター、農耕機
		前橋工場(11月) 農耕機
		小泉工場(12月) バスポディ
1948.	7	東京富士産業(株)を設立。
1949.	8	国産初のフレームレス・リヤエンジンバス「ふじ号」完成。
	10	(29日)中島知久平死去。
1950.	-	企業再建整備法による第二会社12社が7、8月から発足。
		富士工業(株)、富士精密工業(株)、愛知富士産業(株)、富士自動車工業(株)、大宮富士工業(株)、宇都宮車輛(株)、岩手富士産業(株)、富士機械工業(株)、富士機器(株)、田沼木材工業(株)、(株)富田機器製作所、東京富士産業(株)

### (3) 企業再建整備法による第二会社時代

西暦	月	
1950.	7	(12日)富士自動車工業(株)設立。
	7	(13日)富士工業(株)設立。
	7	(20日)宇都宮車輛(株)設立。
	8	(7日)大宮富士工業(株)設立。
	12	バスポディ、生産1,000台突破。
1951.	2	汎用エンジンM6型生産開始。
	7	国鉄木製車の鋼体化生産に着手、この年50両納入(以後1955年までに302両納入)。
1952.	5	ラビット消防ポンプ生産開始。
1953.	4	スクーター、月産2,000台達成。
	4	軽三輪貨物車ダイナスター発売。
	8	宇都宮公共飛行場の業務開始。
	11	メンターT-34初等練習機の輸入機組立開始。
1954.	2	四輪乗用車P-1(1500cc、45馬力)の試作完成、1955年に「すばる」と命名。
	8	戦後初のジェットエンジンJO-1完成。
	-	P-1用エンジンL4試作完成。

## 2. 富士重工業株式会社

企…企業関連  
自…スバル自動車部門  
航…航空宇宙カンパニー  
産…産業機器カンパニー  
エ…エコテクノロジーカンパニー

ラ…ラビット（スクーター）  
バ…バス事業部  
ハ…ハウス事業部  
車…車両事業部

主要事項・スバル自動車部門	西 暦	部門別主要事項
企：富士重工業株式会社設立。資本金 5,000 万円、代表取締役社長、北謙治。本社、東京都新宿区角筈二丁目 73 番地。	1953年(S28) 7月15日  9月  11月	航：米・ビーチエアクラフト社と B-45(メンター T-34) 初等訓練機に関し、技術援助契約調印。 航：メンター T-34 初等練習機の輸入機組立開始。
企：社内募集により社章制定。 企：本社、千代田区丸の内二丁目 18 番地、内外ビルに移転。	1954年(S29) 4月 5月	
企：資本出資 5 社を吸収合併し、資本金 8 億 3,050 万円となる。  企：国鉄から自動車メーカーとして正式指定を受ける。	1955年(S30) 2月 4月 6月 7月 10月	バ：チリ国営交通営団から大型ディーゼルバス 300 台受注。  航：米・セスナ社と L-19 連絡機に関し技術援助契約調印。 ラ：ラビットジュニア (125cc) 発売。 航：メンター T-34 練習機国産 1 号機初飛行に成功。 車：軌道モーターカー TMC100A 形生産開始。
企：吉田孝雄専務取締役が代表取締役社長に就任。	1956年(S31) 5月  6月 7月 8月	産：ロビンエンジン KD11 型発表。 ラ：トルコン付ラビットスーパーフロー量産開始。 バ：日本初のエアサスペンションバス完成、国鉄に納入。 航：防衛庁のジェット中間練習機(T-1) 試作受注開始。
	1957年(S32) 9月	ラ：ラビットスーパーフロー (250cc) 発売。
自：軽四輪乗用車スバル 360 発表 (5 月 1 日発売、価格 42 万 5,000 円)。 自：全国スバル自動車販売協会発足。	1958年(S33) 1月 3月3日 12月	航：T1F2 ジェット中間練習機、国産試作 1 号機初飛行に成功。
企：倍額増資により資本金 16 億 6,100 万円となる。	1959年(S34) 2月 10月 12月	産：ロビンエンジン EC51A 型、KB11 型発売。 航：KM 機、世界高度新記録 (9,917m) 樹立。
企：株式、東京証券取引所に上場。  企：富士商工㈱を合併、資本金 18 億 8,600 万円となる。 自：群馬製作所本工場開設。	1960年(S35) 2月 3月 6月  7月 9月 10月	産：ロビントラクター T4 型発売。 航：米・ベル社と HU-1B / 204B ヘリコプター生産に関する技術援助契約調印。 バ：ワンマンバス開発。 車：ディーゼル特急「はつかり」(キハ 80 形)1 号車完成。
自：スバルサンバートラック発売。 企：増資により資本金 33 億円となる。	1961年(S36) 2月 4月 5月 11月	産：ロビンエンジン EY21 型生産開始。 航：当社が尾翼と主翼桁の分担生産をした YS-11 中型輸送機試作完成。
企：増資により資本金 49 億 5,000 万円となる。	1962年(S37) 3月 12月	工：米・ガーウッド社と技術提携のロードパッカー (LP-101) 完成。
企：横田信夫 (元日本電信電話公社副総裁) が代表取締役社長就任。 自：スバル月産 5,000 台達成。 企：創立 10 周年を記念し、社章制定。 自：スバル 360 カスタム発売。  企：社内募集により社章制定 (増田祐三作詩、團伊玖磨作曲)。	1963年(S38) 5月  7月 8月 10月 12月	航：富士ベル HU-1B タービンヘリコプター完成、防衛庁に納入。 車：日本通運㈱向、高速道路用セミトレーラ完成。
自：第 2 回グランプリレースの T-1 クラスで、スバル 360 が 1 位、2 位独占。  企：米・テナント社と共同出資の関係会社、富士テナント㈱発足。  自：群馬製作所のテストコース完成。	1964年(S39) 5月  8月 10月  11月	工：スイーパー T42 型発売。 車：西独：カールケスボーラー社とトレーラーの技術提携調印。 車：日本初の 25t 積カーボンブラック専用ホッパー貨車生産。
企：製品別事業部制採用 (自動車事業部、機械事業部、車両バス事業部、航空機事業部) 自：小型乗用車スバル 1000 発表。 自：スバル、月販 1 万台突破。	1965年(S40) 2月 4月 8月 10月  12月	車：日本初の国鉄向特殊気動車 (電気作業車) 完成。 工：テナントスイーパーのノックダウン開始。 航：戦後初の国産軽飛行機 FA-200、試験飛行成功。
企：株式額面 500 円を 50 円に変更。 企：本社、新築のスバルビルに移転。 企：株式、東京、大阪、名古屋証券取引所に上場。 自：スバル 1000 4 ドアセダン発売。 企：倍額増資と 1 億円の公募により資本金 100 億円となる。  企：いすゞ自動車㈱と業務提携調印。	1966年(S41) 1月  3月 5月14日 9月 10月 12月	航：FA-200 の愛称「エアロスバル」に決定。

主要事項・スバル自動車部門	西 暦	部門別主要事項
<p>自：スバル 1000 の保証期間延長、2 年間または 5 万kmとなる。          企：社債 30 億円を募集。          企：スバル 360、台湾への KD 輸出開始。          自：スバル 1000 スポーツ発売。          企：当社、㈱小松製作所、富士ロビン㈱が業務提携、富士ロビン㈱は富士小松ロビン㈱と改称。</p>	<p>1967年(S42)            3月            8月            10月            11月            12月</p>	<p>航：VTOL 垂直離着陸実験機 FTB 完成、航空宇宙技術研究所に納入。</p>
<p>企：SOA (スバル オブ アメリカ) 設立。          企：当社、三井物産㈱、三井造船㈱が米・ストリック社とコンテナに関し、技術提携(1967 年 6 月)後、合併販社日本ストリック㈱設立。          企：いすゞ自動車㈱との業務提携解消。</p> <p>自：第 10 回日本アルペンラリーでスバル 1000 スポーツがクラス優勝。          企：日産自動車㈱と業務提携調印。          自：スバル 360 ヤング S、同 SS 発売。</p>	<p>1968年(S43)            2月            5月            6月            6月29日            7月            9月            10月            11月            12月</p>	<p>産：ロビンエンジン EY18 型発表。          ラ：ラビットスクーター生産打切、太田北工場で最終車ラインオフ。          車：20 フィートアルミ製海上コンテナ量産開始。          産：スノーモビル用ロビンエンジン、米・ボラリス社に輸出開始。</p> <p>工：モートラック E103 型発売(丸ハンドル車)。</p>
<p>自：矢島工場稼働開始。          自：スバル FF-1 シリーズ発売。          自：スバル FF-1、米国向輸出開始。          自：スバル R-2 発売。          企：日本初の集中自動管理無人化高層倉庫方式のスバル部品センター完成。</p> <p>企：日産サニークーペの受託生産開始。</p>	<p>1969年(S44)            1月            2月            3月            7月            8月            10月            11月            12月</p>	<p>バ：国鉄東名ハイウェイバス 1 号車納入。</p> <p>車：15t バン型セミトレーラ、14t アオリ式セミトレーラ開発、発表。</p> <p>航：米・ライオン社と高速無人標の機 BQM-34A(ファイアービー)に関し技術援助契約調印。</p>
<p>企：横田信夫社長が取締役会長、大原栄一副社長が代表取締役社長に就任。          自：スバル FF-1 1300G および 1100 シリーズ発売。          自：第 12 回日本アルペンラリーで初出場のスバル FF-1 1300G がクラス優勝。          自：軽自動車、生産 100 万台達成。          企：車両バス事業部を分離し、車両事業部とバス事業部新設。</p>	<p>1970年(S45)            2月            5月            7月            9月            10月</p>	<p>産：ロビンエンジン生産累計 100 万台突破。          航：FA-200 エアロスバル、西独に初輸出(2 機)。</p> <p>ハ：オフィストレーラ完成。          航：XMH 型固定翼タービンヘリコプター試験機完成。</p>
<p>自：スバルレオーネクーペ発売。          自：スバル 1300G 4WD バン第 18 回東京モーターショーに出品。</p>	<p>1971年(S46)            1月            7月            10月</p>	<p>ハ：ユニットハウス完成(3 月発売)。          産：米・ウィスコンシン社とロビンエンジンの輸出契約締結。          ハ：オフィストレーラ TR-1 発売。</p>
<p>自：レオーネ 4 ドアセダン発売。          企：大卒女子採用開始。</p> <p>自：レックス発売。</p> <p>自：レオーネ 4WD エステートバン発売。          企：富士重工関連労働組合連合会(富士労連)結成。</p>	<p>1972年(S47)            2月            4月            7月            9月            10月</p>	<p>航：ベル社と 204B-2(HU-1H) タービンヘリコプターに関し、技術援助契約調印。          工：世界最大の産業用清掃車テナントスーパード(T86E)の国産化完成。          産：ロビンエンジン KD 型発売以来、205 万台、1,000 万馬力達成。</p>
<p>自：レオーネハードトップ発売</p> <p>企：転換社債 45 億円発行。          自：レックス 4 サイクル車発売。</p>	<p>1973年(S48)            4月            6月            7月            9月            10月            12月</p>	<p>工：塵芥収集車フジマイティー専用工場完成。</p> <p>航：HU-1H 多用途ヘリコプター 1 号機初飛行成功。</p> <p>航：ボーイング 747SP ラダー、100 機分受注。</p>
<p>自：レオーネ排出ガス対策車、触媒なしで米・環境保護庁 '75 年排出ガス公式認定試験合格。          自：第 16 回日本アルペンラリーでレオーネ RX 総合優勝。</p>	<p>1974年(S49)            3月            6月            7月            9月            10月</p>	<p>車：東海道新幹線の架線張替用専用作業車開発。          航：米・ロックウエル社と双発ビジネス機の生産・販売に関する共同事業契約調印。</p> <p>航：KM-2B(T-3) 単発ピストン初等練習機完成。</p>
<p>企：50 年度排出ガス規制に対応する SEEC-T システム発表。          自：レオーネ 4WD セダンおよび AT 車発売。          自：スバル、生産 200 万台達成。</p> <p>企：「母と子の夏休み乗り物教室」を群馬製作所と大泉飛行場で開催(以降毎年開催)。          自：51 年度排出ガス規制適合車レオーネ SEEC-T 発売。</p> <p>自：軽初の 51 年度排出ガス規制適合車、レックス SEEC-T 発売。</p>	<p>1975年(S50)            1月            3月            5月            7月            10月            11月            12月</p>	<p>産：ロビンジェネレーター RG シリーズ輸出開始。          ハ：連棟式ユニットハウス発売。          車：新交通システム KRT、沖縄国際海洋博覧会に納入、実用化に成功。</p> <p>航：ロックウエル社と共同開発の FA-300、初飛行に成功。</p>

主要事項・スバル自動車部門	西 暦	部門別主要事項
<p>企：当社、SOA(スバル オブ アメリカ)の筆頭株主となる。  自：軽枠拡大車スバルレックス5、スバルサンバー5発売。  企：男子(管理職を除く)の定年を60才に延長。  企：初の外貨建て社債3,000万ドイツマルク(約36億円)発行。</p>	<p>1976年(S51)  1月  3月  5月  9月  11月</p>	<p>バ：特殊バス(採血車、レントゲン車、婦人検診車、移動販売車)の一貫生産開始。  工：センターレス方式の粗大ゴミ収集車、LP650 発売。</p>
<p>自：新型レオーネ、53年度排出ガス規制適合車、業界に先駆けて発売。  自：レックス550(53年度排出ガス規制適合車)、サンバー550 発売。  企：2,000万株の時価発行。  自：SOA、スバルプラット発売。</p>	<p>1977年(S52)  4月  5月  9月  10月  11月</p>	<p>航：FA-300(700型)、運輸省航空局型式証明取得(9月には米連邦航空局の型式証明取得)。  バ：タイ・サイアムモータース社とKDバス組立技術援助契約締結。</p>
<p>自：スバル小型エンジン、生産累計100万台達成。  企：大原栄一社長が代表取締役会長、佐々木定道取締役(当時日産自動車(株)副社長)が代表取締役社長に就任。</p>	<p>1978年(S53)  2月  5月  9月  10月  11月</p>	<p>車：自動昇降式ピッチャーマウンド、1,200ℓ吸水車、265型スーパーなど横浜スタジアムに納入。  航：ボーイング社と767、777(YX)の事業契約(当社分担は主翼フェアリングおよび主脚ドア)。  工：全油圧方式産業用清掃機、スーパー266型国産化完成。</p>
<p>自：ザ・ニューレオーネセダン発売。  自：ザ・ニューレオーネハードトップ発売。  自：軽キャブバン初のサンバーハイルーフ発売。(55年排ガス適合車)  企：外貨建て転換社債6,000万スイスフラン(約90億円)発行。</p>	<p>1979年(S54)  3月  4月  6月  7月  10月  11月  12月</p>	<p>車：後楽園球場の投手交代用リリーフカーにモトラック登場。  航：AH-1S対戦車ヘリコプター、KD1号機納入。  産：女子のみによる小型4サイクル・ロビンエンジン組立ライン稼働。  車：北海道向特急気動車「おおぞら」(キハ183形)納入。  航：ロックウェル社とのFA-300双発ビジネス機共同開発契約解除。  航：RPV無人偵察機研究受注契約調印。</p>
<p>自：レオーネ、第28回サファリラリー初出場でクラス優勝。  自：サンバー4WD発売。</p>	<p>1980年(S55)  4月  11月  12月</p>	<p>車：成田空港ジャンボ機用給油専用車納入。</p>
<p>自：レオーネ4WD ツーリングワゴン発売。  自：FFレックスコンピ発売。  自：FFレックスセダン発売。  自：レオーネ4WD・AT車発売。(世界初のMP-T方式)  企：第8回社会人野球日本選手権大会で優勝。</p>	<p>1981年(S56)  2月  5月  7月  9月  10月  11月  12月</p>	<p>産：ロビンエンジンEY15型、EY20型発売。  産：ロビンジェネレーターLGシリーズ発売。  航：MTX次期中等ジェット練習機の開発、主契約者に川崎重工業(株)、開発協力者に三菱重工業(株)、当社が決定。  車：ステンレス電車9000型、東武鉄道(株)に納入。  バ：日本初の3軸大型観光バス開発、モーターショーに出展。</p>
<p>自：オランダ・VDT社とCVT(無段変速機)に関する共同開発契約調印。  企：無担保転換社債100億円発行。  自：業界で初めて通販会社ディノスと提携。  自：新型サンパートライ、ハイトラシリーズ発売。  自：レオーネ4WDターボAT、4WD・RXシリーズ発売。  自：レオーネ、生産累計100万台達成式典挙行。  自：日産自動車(株)受託車、生産100万台達成式典挙行。</p>	<p>1982年(S57)  2月  4月  5月  7月  8月  9月  10月  12月</p>	<p>車：LE-Car発売。  バ：バスボディ、キュービック化のフルモデルチェンジ実施。  航：AH-1S対戦車ヘリコプターへの主契約者に決定。ベル社とAH-1Sに関し技術援助契約調印。  バ：バスボディ、生産累計5万台達成。</p>
<p>企：3000万株の時価発行。  自：大泉工場開設、本格稼働。  自：第31回サファリラリーでレオーネ4WDがグループA優勝。初の総合5位入賞。  自：スバル、生産500万台達成。  自：ドミンゴ発売。</p>	<p>1983年(S58)  2月  3月  5月  7月  8月  10月  11月</p>	<p>バ：科学万博つくば'85の観客輸送用連節バス受注(100台)。  航：防衛庁向無人標的機ターゲット・ドローンの開発担当会社に決定。  バ：日本初の2階建てバス試作完成、モーターショーに出展(日産ディーゼル工業(株)と共同開発)。  車：第三セクター、三陸鉄道(株)向気動車、7両納入。</p>
<p>自：スバルECVT(世界初の電子制御電磁クラッチ式無段変速機)開発発表。  自：スバルジャスティ発売。  自：オールニューレオーネ発売。</p>	<p>1984年(S59)  2月  3月  5月  6月  7月  8月  12月</p>	<p>航：当社、三菱重工業(株)、川崎重工業(株)の3社、ボーイング社とYXXの国際共同開発に関し、了解覚書締結。  バ：連節バス1号車完成、公開。  航：当社開発のKM2D型ターボプロップ機、初飛行に成功。  航：オランダ・フォッカー社と民間旅客機、フォッカー50の尾翼の一部の製造契約締結。  車：LE-Carを名古屋鉄道(株)と樽見鉄道(株)に納入。  航：AH-1S国産1号機納入。</p>

主要事項・スバル自動車部門	西 暦	部門別主要事項
<p>自：スペシャルティカー、スバル XT、米国で発売。</p> <p>企：大原栄一会長が名誉会長。佐々木定道社長が代表取締役会長、田島敏弘副社長が代表取締役社長に就任。</p> <p>自：アルシオーネ発売。</p> <p>企：5000万米ドル（約119億円）の転換社債発行。</p> <p>自：スバルデザインセンター完成。</p> <p>自：ジャスティ 1.2ℓ 4WD シリーズ発売。</p> <p>自：レオーネ 3ドアクーペ発売。</p>	<p>1985年(S60)</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>10月</p> <p>11月</p>	<p>バ：連節バス 100 台が、つくば'85 で活躍。</p> <p>産：ロビンエンジン累計生産 1000 万台達成。</p>
<p>自：スバルの輸出基地「東扇島物流センター」（神奈川県川崎市）が完成。</p> <p>自：レオーネ 3ドアクーペ RXノII（フルタイム 4WD）発売。</p> <p>企：いすゞ自動車㈱と、合併による米国現地生産の基本協定に調印。</p> <p>自：ドミンゴ 1.2ℓ 4WD 発売。</p> <p>企：日産自動車㈱の受託生産車最終号引渡式を挙げる。</p> <p>自：日本初のワンボックス・フルタイム 4WD、スバルドミンゴ GX 発売。</p> <p>企：米国に、「スバル・リサーチ・アンド・デザイン社」を設立。</p> <p>企：富士重工研修センターを東京都八王子市に新設。</p> <p>自：レオーネシリーズを改良。同時にセンターデフ式フルタイム 4WD のレオーネセダン、ツーリングワゴンを追加発売。</p> <p>企：台湾に台湾偉士伯との合併会社「大慶汽車工業股份有限公司」設立。</p> <p>自：新レックスコンピ発売。</p> <p>自：新レックスセダン発売。</p>	<p>1986年(S61)</p> <p>2月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>航：FA-200 エアロスバル 300 号達成記念式典挙行。</p> <p>産：ロビンエンジン、米国芝刈機市場に本格進出。</p> <p>ハ：完全折りたたみ式コンテナハウス「伸び太郎」発売。</p> <p>産：スバル除雪機「とおりゃんせ」発売。</p> <p>ハ：拡張型折りたたみハウス「ミスターワイド」発売。</p>
<p>自：世界初の電子制御・無段変速システム搭載ジャスティ ECVT 発売。</p> <p>自：レックス 5ドアセダンツインピスコフルタイム 4WD 発売。</p> <p>企：米国に「SUBARU-ISUZU AUTOMOTIVE INC.」設立。（略称：SIA）</p> <p>自：スバル研究実験センター起工式挙行。</p> <p>自：レックス ECVT 発売。アルシオーネ VX(2.7ℓ、電子制御フルタイム 4WD) 発売。</p> <p>企：米国パデュー大学にいすゞ自動車㈱と SIA 奨学基金設立。</p> <p>自：新型電子制御電動モーター式パワーステアリングシステム実用化に成功</p> <p>企：個人輸入代行会社スバルワールドトレーディング㈱設立。</p> <p>自：サンバーシリーズを改良。フルタイム 4WD を展開。</p> <p>自：レオーネシリーズを改良。アクティブ・トルク・スプリット 4WD を展開。</p> <p>自：ジャスコ㈱と軽自動車の販売提携。</p>	<p>1987年(S62)</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>航：ボーイング 747 のエルロン、スポイラー初号機完成。</p> <p>車：国鉄向け最後の新型気動車 6 形式 77 両の納入完了。</p> <p>車：車軸伸縮式カートレアラ開発。</p> <p>ハ：ボルボ社と新型観光バス共同生産決定。</p> <p>航：米・マクダネルダグラス社から MD-11 用アウトボードエルロン受注。</p> <p>産：ロビンエンジンに空冷ディーゼル 2 機種追加発売。</p> <p>バ：スウェーデン、ボルボ社と共同開発の新型観光バス「アステローペ」発売。</p> <p>ハ：事務所タイプ組立式ハウス「フジミニハウス CF」シリーズ発売。</p> <p>航：無人ジェット標的機「ターゲット・ドローン」の量産担当社に決定。</p> <p>車：JR北海道旅客鉄道㈱と設計・製作協力したデラックスリゾート特急車両「トママム・サホロエクスプレス」完成。</p>
<p>自：イタリア、モトリー・モデルニ社との水平対向 12 気筒エンジンの共同開発発表。</p> <p>企：愛知県半田市に工場用地取得。</p> <p>自：ドミンゴシリーズを改良、1.2ℓ 4WD 全車種にフリーランニング式フルタイム 4WD 展開。</p> <p>自：レックスシリーズにスーパーチャージャー搭載「V」「VX」発売。</p> <p>企：中古車販売会社スバル中古車販売㈱設立。</p> <p>自：フリーダイヤルスバルホットライン開設。(0120-052215)</p> <p>企：スウェーデン・ボルボ社とボルボ車の国内販売提携。</p> <p>企：21 世紀残日表示大時計を本社ビル屋上に設置。</p> <p>企：大宮第 2 スバルビル完成。</p> <p>自：サンバーシリーズを改良。3バルブエンジンを 4WD 車に展開。</p> <p>自：イタリア・フィアット社と「スバル ECVT システム」供給契約締結。</p> <p>自：OEM 車スバルビッグホーンイルムシャー発売。</p>	<p>1988年(S63)</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>12月</p>	<p>産：スバル小型ディーゼル発電機「防音タイプ」発売。</p> <p>産：韓国、大興機械工業㈱と汎用エンジン加工設備の輸出契約締結。</p> <p>車：宮福鉄道㈱に LE-Car6 両納入。納入総数 100 両を突破（総計 101 両）。</p> <p>工：シェラトン・グランデ・トーキョー・ベイホテルに、ごみ収集輸送装置納入。</p> <p>航：KM-2 改型練習機初飛行に成功。</p> <p>航：海上保安庁にベル式 212 型新製機 JA9684 1 機納入。</p> <p>車：JR 北海道旅客鉄道㈱に碍子洗浄車 1 両納入。</p> <p>航：双発ビジネス機「FA-300」1 機を（財）航空科学振興財団に寄贈。</p> <p>航：KM-2 改納入式開催。</p> <p>ハ：ユニットハウス「CAK-J 型」発売。</p>
<p>企：R&amp;D 会社「㈱スバル研究所」設立。</p>	<p>1989年(S64)</p> <p>1月</p>	

主要事項・スバル自動車部門	西 暦	部門別主要事項
<p>自：「スバル ECVT システム」イタリア・フィアット社に供給開始。  自：レガシィ、米国アリゾナ州で「10万km連続走行・世界速度記録」に挑戦。新記録＝平均速度 223.345km/h を樹立。  自：レガシィシリーズ発売。  自：レガシィの「10万km連続走行・世界速度記録」FIA(国際自動車連盟)公認記録に認定。  自：ジャスティ ECVT シリーズ米国での販売開始。  自：三鷹製作所と群馬製作所を統合。  自：自動車デザインの研究開発拠点「デザイン東京スタジオ」完成。  自：レガシィシリーズ米国での販売開始  自：台湾現地生産拠点「大慶汽車工業股份有限公司」生産開始。</p> <p>自：レックスシリーズを改良。新開発の直列 4 気筒エンジン「クローバー 4」を搭載。</p> <p>企：現地販売会社「スバル カナダ インク」設立。  自：世界初、多層構造樹脂製燃料タンクの量産化に成功。  自：90 年 WRC (世界ラリー選手権) にレガシィで参戦を表明。  自：レガシィシリーズの欧州での販売開始。  自：SIA で生産開始  自：中部地区において新車の保管・整備を行う「中部配車センター」(岐阜県土岐市)完成。</p> <p>自：先行技術開発拠点「スバル研究実験センター」に高速周回路が完成。  自：レガシィ「RStyle RA」発売。</p>	<p>1989年(H元年)</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>航：ボーイング 757 旅客機用外方フラップを受注。  車：JR 四国に世界初の「振り式特急ディーゼルカー」3 両納入。</p> <p>車：LE-Car の営業キロ総延長 500km突破。  航：KM-2 改の機体呼称を T-5 へ改称。</p> <p>車：東京・大田市場に「モトトラック」「サンラック」「スバルサンパトトラック」など計 122 台納入。  産：インドネシアダイナミカ社と汎用エンジンに関する技術援助契約締結。  航：航空機用新素材、複合材構造等の研究開発施設「技術研究棟」完成。</p> <p>車：JR 北海道旅客鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株)両社にブルートレイン「北斗星」13 両納入。</p> <p>車：JR 東海に納入した特急ディーゼルカー「キハ 85 系」通産省選定「G マーク商品」に選ばれる。  航：205B ヘリコプターの型式証明を米連邦航空局より取得。</p>
<p>自：「スバルテクニカルセンター大阪」を開設。  自：軽自動車の 550cc から 660cc への規格改定に伴い、サンパシリーズをフルモデルチェンジ、レックスシリーズを改良。  自：水平対向 12 気筒スバル M.M エンジンをイタリアのコローニチームに供給、アメリカン・グランプリで F-1 デビュー。  自：SIA 製レガシィを台湾に出荷販売開始。  自：第 38 回サファリラリーでレガシィ RS4WD、WRC デビュー、同ラリー史上初のグループ N 優勝(総合 8 位)、総合 6 位入賞。  自：レガシィ 4 ドアセタンをいすゞ自動車(株)に OEM 供給開始。  企：田島敏弘社長が代表取締役会長、川合勇(元日産ディーゼル工業(株)社長)が代表取締役社長就任。</p> <p>自：スバルコローニレーシング sr.1 ヘスバル M.M エンジンの供給停止。  自：全国スバル特約店にカーエアコン用フロンガス回収、再利用装置の設備開始。  企：米国販売力強化の一環として現地販売会社「スバル オブ アメリカ」(略称：SOA)を 100% 子会社化。</p>	<p>1990年(H2)</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>11月</p>	<p>工：塵芥収集車「フジマイティ」生産累計 3 万台突破。  車：北近畿タンゴ鉄道(株)にパノラマ特急車両「タンゴ・エクスプローラー」3 両、軽快気動車 4 両納入。</p> <p>航：205B ヘリコプターの国内耐空証明を運輸省航空局より取得。  バ：ハイデッカボディ MAXION 発売。</p> <p>工：塵芥収集車「フジマイティ」新型(8 型)発売。</p> <p>車：振り式特急ディーゼルカー量産 35 両完納。</p>
<p>自：日産バルサーの受託生産を決定。(5 月、生産開始)</p> <p>自：「スバルテクニカルセンター仙台」を開設。  自：「スバル ECVT」生産累計 30 万台達成。</p> <p>企：SOA の販売金融子会社「スバル アクセプトランス コーポレーション(略称 SAC)」業務開始。  自：レガシィ月販新記録達成、初めて全国 1 万台を突破(10,557 台)。  自：3 ナンバー・スペシャルティクーペ「アルシオーネ SVX」発売。</p> <p>企：(株)FOD に大宮製作所用地の一部を売却。  自：「スバル ECVT システム」日産自動車に供給開始。</p>	<p>1991年(H3)</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>航：仏・アエロスペース社よりカーボン・カーボン技術を導入。  航：ボーイング 777 型大型旅客機共同開発調印。  バ：大型観光バス「アステロベ・スベリオール」を発売開始(排ガス N<sub>2</sub> 規制クリア)。</p> <p>産：ロビン・ハイブリッドシステムを開発。  工：自律走行方式の電動床面清掃ロボットを開発。  ハ：大和工商リースから折りたたみハウスの受託生産開始。</p>
<p>自：ニュービッグホーン「ハンドリング・バイ・ロータス」発売。  自：ヴィヴィオ新発売。  自：4WD 車生産累計 300 万台を達成。</p> <p>企：川合社長、在東京サイプラス共和国(キプロス)名誉総領事に就任。  企：川合社長、航空宇宙工業会会長に就任。  自：塗装済バンパーのリサイクル部品を使用し、実生産を開始。  自：スバル車生産累計 1,000 万台を達成。  企：村田発條と共同出資で複合材部品生産会社「エーシーエム栃木(株)」を設立。</p> <p>企：中期経営計画発表。  自：「スバルテクニカルセンター広島」を開設。  企：中国・貴州航空工業総公司と軽乗用車国産化の技術供与契約に調印。</p> <p>自：タイ国へ完成車輸出を開始。  自：インプレッサシリーズ発売。  自：サンバーディアスシリーズのエンジン部品・インテークマニホールドが「プラスチック大賞」を受賞。</p>	<p>1992年(H4)</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>車：JR 東日本向気動車(キハ 100、110)76 両を完納。  工：スイーパー「FUJI-HITER」シリーズを発売(ドイツ・ハコ社の OEM)。</p> <p>航：宇都宮第二工場 41 棟竣工、ボーイング 777 生産開始。  工：清掃ロボットを JR 東日本へ納入。</p> <p>産：スバルジェネレータ SGV シリーズ(OHV エンジン搭載)を発売。  車：JR 北海道へ振り式特急ディーゼルカー試作 1 両納入。</p> <p>航：半田工場稼働開始。</p>

主要事項・スバル自動車部門	西 暦	部門別主要事項
<p>企：全国運転代行事業協会と運転代行専用車両を開発。          企：「地球環境保護に関する取り組み計画」を策定。          自：ヴィヴィオ、WRC・サファリラリーに初挑戦。史上初の完走、クラス優勝・準優勝を獲得。          企：サンバーの電気自動車を開発、「第8回低公害フェア」に出展。          自：3ウェイコンバーチブル「スバルT-TOP」3千台限定発売。</p> <p>自：レガシィ、ニュージーランドラリーでWRC初優勝。          自：NEWレガシィ世界最速ワゴン記録達成。1km区間＝249.981km/H(FIA、ACCUS公認)          自：NEWレガシィシリーズを発売。</p> <p>企：ロビン・アメリカ設立。          自：サンバー「ディアス・クラシック」を発売。</p>	<p>1993年(H5)          1月          3月          4月          5月          7月          8月          9月          10月          11月          12月</p>	<p>航：B767、500号機納入達成。</p> <p>航：B777中央翼、初号機納入。</p> <p>工：高層ビル用ごみ分別搬送システム「ヒュー・ストーン」の実証プラントを武蔵野社宅内に完成。運用試験を開始。          産：(株)マキタ向けに刈払い機の供給開始。</p>
<p>自：インプレッサに「STiバージョン」を設定。          自：EJ系エンジン生産累計100万台達成。</p> <p>自：ジャスティの国内向け生産打ち切り。          自：日産自動車よりADバンOEM供給を受け、新型レオーネバンとして発売。          自：「ロール圧延法」による自動車用塗装バンパーの新しい塗膜剥離技術を開発。</p> <p>自：サンバーの生産を桐生工業㈱から本工場へ集約。          企：ロビンマニュファクチャリングUSAを設立。          自：レガシィシリーズに2.5ℓ「250T」を追加。          自：インプレッサ「WRXtype RA STi」を発売。          企：日本信販と提携し「スバルカード」を導入。          自：スバル、初めて年間を通じてWRC全戦参加。          マニュファクチャラーズ・タイトル2位(カルロス・サインツ)を獲得(共に過去最高位)。</p>	<p>1994年(H6)          1月          2月          3月          4月          5月          9月          10月          11月          12月</p>	<p>産：ロビンエンジンEH30型、EH34型が米国加州大気資源局(CARB)の排気基準値をクリア、認証を得る。          産：ポラリス向エンジン生産累計100万台達成。          産：小型(マイクロ)バス新形式認定取得。          産：ポラリス製パーソナルウォータークラフトを発売。</p> <p>産：伊・ユーロシステム社製草刈機の輸入を開始。</p> <p>産：低公害CNGバスを東京都、横浜市、川崎市へ納入。</p>
<p>企：阪神大震災被災地に対する支援として、コンテナハウスと発動発電機を神戸市へ提供。          企：北海道中川郡美深町にて北海道試験場(テストコース)起工式を実施。          自：2ドアクーペインプレッサ「リトナ」発売。          企：シンガポール富士重工業を設立。</p> <p>自：ヴィヴィオバンに3速AT車を発売。</p> <p>自：初の電気自動車「サンバーEV」発売。          自：軽乗用車(含ボンネットバン)生産累計300万台達成。          自：新塗膜保護技術を開発。本格的に導入を開始。          自：レガシィ「グラッドワゴン」発売。          自：マジャール・スズキ製ジャスティを欧州市場に導入。          企：埼玉製作所の研究・開発棟完成、同製作所への移転完了。          企：大宮製作所の移転に伴い、大宮地区を「大宮事業所」と名称変更。          自：インプレッサスポーツワゴン「グラベルEX」を発売。          自：ヴィヴィオ「ピストロ」発売。          自：スバル、WRCにおいてマニュファクチャラーズ・タイトルとドライバーズ・タイトル(コリン・マクレー)を獲得。</p>	<p>1995年(H7)          1月          2月          3月          4月          6月          8月          9月          10月          11月          12月</p>	<p>産：埼玉製作所工場棟竣工。4月より稼働開始。          航：救難捜索機U-125A初号機を航空自衛隊に納入。          航：T-5用フライトシミュレータを海上自衛隊に納入。          産：ロビンマニュファクチャリングUSA生産開始。</p> <p>工：ゴミ収集管理の効率化を目的とした「フジマイティーコンテナ計量システム」発売。</p> <p>工：川崎市にゴミ輸送用コンテナとコンテナ輸送車両を納入。          同市で10月よりゴミの貨物輸送を全国で初めて実施。          車：JR北海道に振り子式特急気動車(キハ283形)を開発納入。</p> <p>工：フジマイティーにイオン電着を用いた高品位塗装導入。          航：富士ベル205B型ヘリコプター運輸省航空局の型式証明を取得。</p>
<p>自：「ロール圧延法」を実用化し、バンパーからバンパーへのリサイクルを開始。          自：福祉車両サンバー「トランスケア」発売。          企：大宮製作所跡地の一部を大宮市土地開発公社及び住都公団へ売却。          自：航空宇宙技術を応用したモータースポーツ用品を発売。          企：独自のシステムで市場からのバンパー回収を開始。</p> <p>企：環境システム事業の新会社「(株)富士重工環境システムズ」設立。          企：ホームページを開発。          企：群馬製作所矢島工場第4塗装課にて火災、3,675㎡を焼失。          自：キャンピング機能を搭載した特装車トミンゴ「アラジン」新発売。          自：「スバルECVT」の生産累計100万台達成。          企：川合勇社長が代表取締役会長、田中毅副社長が代表取締役社長に就任。          自：4月に焼失した群馬製作所矢島工場第4塗装課を復旧。第5塗装課と改称しラインオフ式を実施。</p> <p>自：フォレスター、米国インディアナ・モータースピードウェイで24時間世界速度記録(ハーメントロフィー)に挑戦。新記録＝平均速度180.082km/hを樹立。          自：スバル、WRCにおいてマニュファクチャラーズ・タイトルを2年連続で獲得。</p> <p>自：アルシオーネSVX生産終了。</p>	<p>1996年(H8)          2月          3月          4月          5月          6月          7月          8月          10月          11月          12月</p>	<p>航：高性能大型無人ヘリ「RPH2」初飛行に成功。</p> <p>航：B777長距離型機の中央翼初号機出荷。          航：独自開発の新型メインローターシステム(FBR)の初飛行に成功。</p> <p>航：当社設計製造のALFLEX(小型自動着陸実験機)、豪での初飛行、自動着陸に成功。          航：ボーイング737-700用エレベーター量産初号機を納入。</p> <p>航：ボーイング社より日本メーカーで初めて「サプライヤー・オブ・ザ・イヤー」を受賞(主構造部門)。          航：米国RAC社と「ホーカー・ホライゾン」の開発参画について契約。</p>

主要事項・スバル自動車部門	西 暦	部門別主要事項
<p>自：レガシィ国内生産累計 100 万台達成。            企：タイに販売会社「スバルタイランド」を設立。            自：乗用進化型 SUV「フォレスター」新発売。</p> <p>自：大阪府泉大津市に「スバル関西整備センター」を建設するため地鎮祭を実施。            自：トランスケアシリーズを発売し、ウイングステップ、ウイングシート、ストレッチャーを新展開。            自：7 速マニュアルシフトモード付フル電子制御無段変速機「スポーツシフト ECVT」を開発、搭載車を発売。</p> <p>企：輸送機工業とトレーラ事業を移管、統合する契約を締結。            自：レガシィランカスターシリーズを発売。</p> <p>自：関東全域で使用済みバンパーの回収を実施。</p> <p>企：リコール問題で運輸省より行政処分を受ける。            自：台湾・大慶汽車工業股份有限公司でインプレッサの生産を開始。            自：サンバーの ECVT を 3AT に変更。            自：トランスケアシリーズにウイングシートリフトタイプを追加。            自：スバル、WRC において日本車で初めてマニュアルアクチャラース・タイトルを 3 年連続で獲得</p>	<p>1997年(H9)            1月            2月            3月            4月            5月            6月            8月            9月            10月            11月            12月</p>	<p>航：ビギーバッグ小型衛星の試験用供試体を宇宙開発事業団へ納入。</p> <p>工：オギハラ・エコロジー(株)など 3 社と焼却灰溶融資源化プラントを共同開発。            航：航空機模擬標的機の初号機を防衛庁に納入。            航：遠隔操縦観測システム、防衛庁装備審査会で開発完了承認。</p> <p>工：高層ビルごみ分別搬送システム「ヒュー・ストン」を JR 東日本本社ビルに納入。            産：ロビンマニュアルアクチャリング USA にて EH65D 型エンジンの生産開始。            航：スバル・ドライビング・シミュレータを東京モーターショーに出品。</p> <p>航：多用途小型無人機の試験用機体を防衛庁に納入。</p>
<p>企：ポルシェ車の日本国内での販売に協力することを発表。            企：使用済み自動車リサイクルイニシアティブ・自主行動計画を策定。            自：インプレッサ「22B-STi Version」発売。            企：自動車の部品センター機能を桐生工業のスバル太田部品工場に集約。            自：新世紀レガシィ、世界最速ワゴン記録更新。1km区間＝270.532km/h(FIA、ACCUS 公認)。</p> <p>企：産業機器事業の欧州販売会社「ロビン・ヨーロッパ」を設立。            企：環境パンフレット「人と社会と地球の調和を目指して」を発行。            自：新世紀レガシィ発売。            自：軽新規格車新コンパクトワゴン「プレオ」発売。</p> <p>企：代議士に対する贈賄容疑で常動監査役逮捕。            企：同容疑で会長逮捕。            自：インプレッサスポーツワゴン「カサブランカ」発売。            自：レガシィ B4 発売。            自：'98、'99RJC ニュー・カー・オブ・ザ・イヤー ダブル受賞。</p>	<p>1998年(H10)            1月            2月            3月            4月            5月            6月            10月            11月            12月</p>	<p>航：ホーカー・ホライゾンの主翼の組立開始。</p> <p>ハ：新型切妻ハウス発売。            航：新航空法に対応する事業認定を取得。</p> <p>工：新型フジマイティ LP38 型発売。            工：新型モートルトラックグッドデザイン賞受賞。            車：JR 北海道宗谷線に新型特急気動車（キハ 261）納入。            バ：ボルボ連節バス 10 両を納入。幕張地区で運行。</p>
<p>自：サンバーフルモデルチェンジ新規格サンバー発売。            企：旧中島飛行機大宮製作所の大煙突解体に伴い安全祈願祭を実施。</p> <p>自：新レオーネバン発売。            自：プレオ「ネスタ」発売。            企：旧大宮製作所跡地における地下水浄化の概要と計画について発表。            自：4WD 車生産累計 500 万台達成。            企：産業機器事業の中国合弁会社「常州富士常柴羅賓汽油機有限公司」を中国・江蘇省に設立。            自：レガシィランカスターに「ランカスター ADA」を追加。            自：国内 5 地区（山形、神奈川、東京、大阪、広島）のスバル特約店を統合。            自：サンバーに新規格軽乗用ワゴン「ディアスワゴン クラシック」を設定、発売。            企：米国ゼネラルモーターズ(株)と資本・業務提携。            企：スズキ(株)と業務提携。            自：スバル、WRC において年間最多勝を達成。</p>	<p>1999年(H11)            2月            3月            6月            7月            9月            10月            12月</p>	<p>工：エレベーター連動清掃ロボットシステムを東京・神田のオフィスビルに納入。</p> <p>産：ポラリス社向けエンジン生産累計 200 万台達成。            航：ホーカー・ホライゾン初号機の主翼を RAC 社（レイセオン・エアクラフト・カンパニー）へ納入。            航：栃木子ども科学館にヘリコプター・シミュレータを納入。</p> <p>車：JR 東日本に新型寝台特急「カシオペア」を納入。</p>
<p>自：レガシィ B4「BLITZEN」を発売。            企：全国で使用済みバンパーの回収を実施。            企：国内関係会社 5 社を金融事業と不動産事業の 2 社に集約。            企：ゼネラルモーターズ（GM）に対する第三者割当による新株式を発行、払込終了。（増資後資本金 144,428 百万円）            企：日産自動車(株)と業務提携を解消。            企：戦略 5 ヶ年中期経営計画「新 TQF21 計画」を発表。            自：新開発 3.0ℓ 水平対向 6 気筒エンジン搭載の「ランカスター 6」を発売。            自：サンバー生産累計 300 万台達成。            自：New Age インプレッサを発売。            企：「2000 環境報告書」を初めて発行。            企：運輸省への申請手続きミスがあり運輸省より警告を受ける。            自：インプレッサ STi シリーズを発売。            自：電気自動車「サンバー EV」を発売。</p> <p>自：インプレッサが日本カー・オブ・ザ・イヤー特別賞を受賞。            自：プレオ「ニコット」を発売。</p>	<p>2000年(H12)            1月            2月            3月            4月            5月            7月            8月            9月            10月            11月            12月</p>	<p>ハ：母屋拡張型介護ルーム「やさしい家族」を発売。            航：DASH8-400 旅客機胴体尾部組立打錠式挙行。            車：JR 北海道に特急気動車「スーパー宗谷」8 両を納入。</p> <p>航：米国ベルヘリコプターエレクトロニクス社と BA609 ティルトローター機の胴体製造下請契約を締結。            バ：大型観光バスをモデルチェンジ、発売。</p> <p>工：「スバル小型風力発電システム」試作機を公開。            工：回転板式塵芥収集車「フジマイティ LP0 型シリーズ」を発売。            航：対戦車ヘリコプター AH-1S の最終号機を納入。</p>

主要事項・スバル自動車部門	西 暦	部門別主要事項
<p>企：国内関係会社およびスバル特約店の経理業務の集約化を発表。  自：レガシィツーリングワゴン／B4「BLITZEN 2001model」を発売。  企：大和商工㈱の全株式を取得。  企：自動車製造部門（群馬製作所）でゼロエミッションを達成。  企：関係会社の㈱スバル研究所を吸収合併。</p> <p>企：新 TQF21 計画 01 ローリングプランを発表。  自：フィリピンの GM オートワールドでのスバル車販売開始。  自：サンバー「訪問介護車」を発売。</p> <p>企：田中毅社長が代表取締役会長、竹中恭二常務執行役員が代表取締役社長に就任。  自：インドネシアの GM オートワールドでスバル車を販売。  自：GM より OEM 供給を受け、トラヴィックを発売。  企：米国同時多発テロ事件による被害者救援のため、義援金・発電機を提供。  企：オランダ・ロッテルダムに欧州物流管理会社「スバル ヴィークル ディストリビューション」を設立。</p>	<p>2001年(H13)</p> <p>1月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p>	<p>航：航空宇宙技術研究所より、小型超音速ジェット実験機（SST ジェット実験機）の主契約会社として受注。</p> <p>航：米国レイセオン社にて、ホーカーホライゾンの初号機がロールアウト。</p> <p>ハ：中国東風杭州汽車とバス車体への技術給与契約を締結。  産：ロビン汎用エンジン EY シリーズをモデルチェンジ。  産：新型ロビン汎用エンジン EX シリーズを新開発、発表。  工：塵芥収集車フジマイティ累計生産 5 万台を達成。  工：エレベータ連動清掃ロボットシステムを晴海アイランドトリトンスクエアに納入。</p>
<p>自：北米国際自動車ショーにおいて、北米向けモデル「Baja(バハ)」を発売。  自：3.0ℓ 水平対向 6 気筒 DOHC エンジンを搭載したレガシィツーリングワゴン「GT30」及び B4「RS30」を発売。  自：シカゴオートショーにおいてフォレスターのフルモデルチェンジモデルを発売。  自：レガシィ ツーリングワゴン／B4「BLITZEN2002model」を発売。  自：フォレスターをフルモデルチェンジ。  企：宇都宮製作所ならびに宇都宮車両工場、埼玉製作所でゼロエミッションを達成。</p> <p>企：欧州でのスバル事業を統括する「スバル ヨーロッパ社」を設立。  企：日本電気㈱と「NEC ラミリオンエナジー」を設立。(2006.3. 解消)  企：バス車体、鉄道車両の新規生産を 2002 年度限りで終了することを発表。  企：新中期経営計画「Fuji Dynamic Revolution-1」を発表。  自：レガシィ B4「CNG」(天然ガス自動車) 開発を発表。  企：事業持株会社型社内カンパニー制を導入。  企：「環境保全取り組み計画 (2002 年度～ 2006 年度)」を発表。  企：台湾の「大慶汽車工業」、「台湾ベスパ」との合併契約などを解除。新販売会社「スバル オフ 台湾 (SOT)」を立ちあげ。  自：GM、いすゞ、スズキとともに特定品目の購買に関する共同チームを発足。</p> <p>自：レガシィワゴン／B4「BLITZEN6」を発売。  自：スバルフォレスター「CROSS SPORTS」を発売。</p> <p>企：いすゞとスバル・いすゞオートモーティブインクの合併解消と生産委託契約に正式調印。  企：大阪証券取引所および名古屋証券取引所の上場廃止申請。</p>	<p>2002年(H14)</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>航：ボーイングの超高速機ソニック・クルーザーの共同研究に関する覚書に調印。</p> <p>工：有機資源物分別収集車「CVSR」を開発、横浜市有機リサイクル協同組合に納入。  工：「有機資源物分別前処理システム」を開発、その実証装置を茨城県つくば市の分離試験場に設置。</p> <p>産：ロビン汎用ミニ 4 サイクルエンジン EH035 を新発売。</p> <p>航：エアバス社の次世代超大型機 A380 プログラムに参画し、垂直尾翼の前縁・後縁構造など生産する契約を締結。</p> <p>航：航空自衛隊向け新初等練習機の初飛行に成功。  航：ボーイング 777 最新型機の初号機用中央翼を納入。</p> <p>産：塵芥収集車臭気除去装置を開発。</p>
<p>企：スバル・いすゞオートモーティブインクを 100% 子会社化。スバル オフ インディアナ オートモーティブ インクに改称。(略称：SIA)  自：ジャトコとの共同出資による CVT 事業を設立。(2006.9. 解消)  自：トヨタと G-BOOK サービスで協力を合意。  自：GM インドにシボレーフォレスターを供給。</p> <p>企：スバルとサーブ 共同開発および販売協力を合意。  自：ジュネーブモーターショーにてコンセプトカー「B11S」を発表。  自：レガシィをフルモデルチェンジ。</p> <p>企：「スバルピジターセンター」を矢島工場内に開設。  企：コーポレートシンボルを六連星に設定。  自：スバル福岡納整センターを新設。  自：G3X ジャスティを欧州で発売。  自：スバル国内生産累計 1500 万台を達成。  自：レガシィ アウトバックを発売。  自：スバルブランドメッセージ「Think.Feel.Drive」を設定。  自：レガシィが 2003-2004 日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞。  自：「スバル R2」を発売。  自：レガシィ 国内販売累計 100 万台を達成。  自：スバル、WRC においてドライバーズ・タイトル(ペター・ソルベルグ)獲得。</p>	<p>2003年(H15)</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>車：鉄道車両事業を新潟トランスに継承。  ハ：「循環式トイレハウス」を発売。  車：カートレーラー事業を輸送機工業へ営業譲渡。  航：ボーイング・サブライヤー・オブ・ザ・イヤーを受賞。  工：ASR(自動車シュレッターダスト)前処理分別システムを開発。</p> <p>航：エアバス A380 初号機用部品出荷。</p> <p>航：国内初の小型飛行機による完全自動離着陸飛行実験に成功。</p> <p>航：米国新市場用小型ジェット機事業に参画。</p>
<p>企：ハウス事業を分社。  自：スバルカスタマイズ工房がカスタマイズ事業を開始。  自：サーブ 9-2X を群馬製作所で生産開始。  企：関係物流会社を統合。  企：大宮製作所跡地にショッピングセンター「ステラタウン」オープン。  自：中国での販売網構築に着手、現地版社と正式契約。</p> <p>自：スバルとサーブ 新たに新型クロスオーバー車での協業に合意。  企：株式交換により輸送機工業を完全子会社化。  自：スバル、日本初開催の WRC「ラリージャパン 2004」にて優勝(ドライバー：ペター・ソルベルグ)。  自：スバル登録車国内販売累計 300 万台を達成。  企：新人事制度を管理職に導入。  自：スバル R2 が 2005 年次 RJC カー・オブ・ザ・イヤー特別賞ベスト軽乗用車を受賞。</p>	<p>2004年(H16)</p> <p>1月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p>	<p>航：陸上自衛隊向け遠隔操縦観測システムの飛行試験に成功。</p> <p>工：新明和工業㈱と次世代塵芥収集車を共同開発。</p> <p>産：独ディーゼルエンジンメーカーと販売協力合意。</p> <p>航：777-200LR 型機初号機用の中央翼を納入。</p>

主要事項・スバル自動車部門	西 暦	部門別主要事項
<p>企：東京都八王子市に「スバルアカデミー」を開設。  自：「スバル R 1」を発売。  自：スバル車の国内新車販売累計台数 1,000 万台を達成。  自：レガシィが世界累計生産台数 300 万台を達成。</p> <p>自：米国で「B9 トライベッカ」を発売。  企：東京電力と業務用電気自動車の共同開発を開始。  企：GM との提携関係を解消、トヨタ自動車と業務提携を結ぶことで基本合意。</p>	<p>2005年(H17)</p> <p>1月</p> <p>3月</p> <p>4月 5月</p> <p>6月 9月 10月 12月</p>	<p>航：次期固定翼哨戒機の中央翼を初出荷。  工：新型塵芥収集車「フジマイティー LP71 型シリーズ」の販売を開始。  航：ボーイング 787 プログラムに参画し、中央翼などを担当する契約に調印。</p> <p>航：次期輸送機の主翼を初納入。</p> <p>航：次期哨戒機の主翼を初納入。  工：2000kW 大型風力発電システム開発、試作機を設置。</p>
<p>企：45 才以上の社員約 700 名の希望退職を実施。  自：メキシコ市場へスバル車導入、現地販売網設立。  自：スバル フォレスター累計生産台数 100 万台を達成。</p> <p>自：国内 5 地区（北海道、中部、四国、北九州、南九州）のスバル特約店を統合。</p> <p>自：水平対向 2.5ℓ ターボエンジンが「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー 2006」の部門賞を受賞。  企：竹中恭二社長が取締役相談役、森郁夫常務執行役員が代表取締役社長に就任。  自：新型軽乗用車「スバル ステラ」を発売。  自：国内スバル販売会社でのボルボ車販売 15 拠点をヤナセグループに営業譲渡。  自：東京電力に電気自動車「R1e」試作車 10 台を納入。  自：ウクライナでスバル車の販売を本格展開。  自：和歌山スバル自動車㈱と大阪スバル㈱を統合。  自：電気自動車開発で、東京電力、NEC ラミリオンエナジーと「平成 18 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞。  企：第 33 回社会人野球日本選手権大会優勝。  企：ロボットによるビルの清掃システムが評価され、住友商事と共同で「今年のロボット」大賞 2006（経済産業大臣賞）を受賞。</p>	<p>2006年(H18)</p> <p>1月</p> <p>2月 3月 4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月 10月 11月</p> <p>12月</p>	<p>航：陸上自衛隊向け戦闘ヘリコプター AH-64D の初号機を納入。  産：関東地域と中部地域のロビン特約店 2 社を吸収合併し、全国規模の販売会社「富士重工産機販売」を設立。  航：愛知県半田市にボーイング 787 向け中央翼組立工場・複合部品製造工場が完成。</p> <p>航：小型ビジネスジェット機「エクリプス 500」の量産主翼を初納入。</p> <p>工：大型風力発電システムが「新工ネ大賞 資源エネルギー庁長官賞」を受賞。  産：スポーツカート用エンジン「スバル KX21」を新発売。</p>
<p>企：欧州市場向け新型小型乗用車の OEM 契約をダイハツと締結。  企：2007-2010 新中期経営計画を策定。  企：SIA でトヨタ車（カムリ）の生産開始。  企：富士ロビン株式をマキタへ売却。  企：住友商事・CIMC と環境保護車種及び環境保護設備・機器の製造販売に関する合弁会社を中国に設立。  自：インプレッサシリーズをフルモデルチェンジ。</p> <p>自：ダイハツより OEM 供給を受け「スバル ジャスティ」を欧州で発売。  自：インプレッサ BEAMS EDITION を発売。  自：フォレスターをフルモデルチェンジ。</p>	<p>2007年(H19)</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>4月 5月 6月</p> <p>7月 9月 11月 12月</p>	<p>航：ボーイング 787 の中央翼を初出荷。  産：スバル充電式草刈機「e カッター PRO」を新発売。</p> <p>工：新型塵芥収集車「フジマイティー LP81 型シリーズ」の販売開始。</p> <p>工：屋外型清掃ロボットシステムを実用化。</p> <p>産：ロビン汎用エンジン EX シリーズに 2 機種を追加。</p>
<p>自：水平対向ディーゼルエンジンをレガシィとアウトバックに搭載し、欧州市場へ導入。  企：スバル生誕 50 周年。  企：トヨタ・ダイハツ・富士重、開発・生産における新たな協力関係に合意。  自：インプレッサが「自動車アセスメントグランプリ」を受賞。  自：新型車「スバル EXIGA」を発売。  自：「スバル プラグイン ステラ コンセプト」を開発。  自：インプレッサ 4 ドアモデル「アネシス」を発売。  自：ダイハツより OEM 供給を受け「スバル テックス」を国内で発売。  自：世界ラリー選手権ワークス活動を終了。</p>	<p>2008年(H20)</p> <p>2月</p> <p>3月 4月</p> <p>6月</p> <p>10月 11月 12月</p>	<p>航：777 型フレイター初号機用の中央翼を出荷。</p> <p>航：海上自衛隊初等練習機 T-5 の製造を再開。</p>
<p>自：「水平対向ディーゼルエンジン」が第 6 回新機械振興賞「機械振興協会会長賞」を受賞。  自：国内のスバル販売会社を統括会社体制へ完全移行。  自：新型スバル レガシィ シリーズを発売。  自：「スバル プラグイン ステラ」を発表。  自：スバル全モデルが米国 IIHS の 2009 年安全評価で最高評価である「トップセーフティピック」を獲得。  自：スバル ディアスワゴン (Dias Wagon) を発売。  自：スバル全モデルが米国 IIHS の最新 2010 年安全評価で最高評価であるトップセーフティピックを獲得。</p>	<p>2009年(H21)</p> <p>1月</p> <p>5月 6月 9月</p> <p>11月</p>	<p>産：エンジン式刈払機「スバル ロビンカッター」を新発売。</p> <p>工：自律式走行ロボットの走行プログラム自動生成システムを開発。  工：農業用ロボットシステムを開発、サービスロボット市場を拡大へ。  工：住友商事と富士重工業、オフィスエリア清掃ロボットシステムを共同開発。</p>

主要事項・スバル自動車部門	西 暦	部門別主要事項
<p>自：新型軽自動車 スバル ルクラを発売。</p> <p>自：スバル プレオシリーズをフルモデルチェンジ。</p> <p>自：スバル レガシィが「自動車アセスメントグランプリ '09/'10」を受賞。</p> <p>自：運転支援範囲を大幅に拡大した先進運転支援システム「新型 EyeSight (アイサイト)」を開発。</p> <p>自：「インプレッサ XV」を発売</p> <p>自：富士重工業、新世代ボクサーエンジンを開発</p> <p>自：先進運転支援システム「EyeSight(ver.2)」が日本自動車殿堂カーテックノロジーオブザイヤーを受賞</p> <p>自：群馬製作所開設 50 周年</p> <p>自：新型コンパクトカー スバル トレジアを発売</p> <p>自：スバル WRX STI 4 ドア A-Line が「オートカラーアワード 2011 インテリア部門賞」を受賞</p> <p>自：スバル インプレッサ「WRX STI tS」・「WRX STI spec C」を発売</p> <p>自：スバル全モデルが米国 IIHS の最新 2011 年安全評価で最高評価である「トップセイフティピック」を獲得</p>	<p>2010年(H22)</p> <p>1月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>工：サービスエリア清掃ロボットシステムを共同開発。</p> <p>工：電動式塵芥収集車「フジマイティエレクトラ」を新発売。</p> <p>工：SUBARU80/2.0 風力発電システムが国内初の港湾外洋上風力発電施設で本格稼働開始</p> <p>産：富士重工業 スバル汎用エンジン「E A-Vシリーズ」を新開発</p> <p>産：富士重工業 ランマー専用エンジン「E R 1 2」を新開発</p>
<p>自：スバル レガシィ「EyeSight( アイサイト ) (ver.2)」搭載モデルが販売台数 1 万台を達成</p> <p>自：富士重工業 国内スバル特約店の全店が「エコアクション 2 1」の認証取得</p> <p>自：新型軽乗用車 スバル ステラを発売</p> <p>企：森郁夫代表取締役社長が代表取締役会長、吉永泰之取締役兼専務執行役員が代表取締役社長に就任。</p> <p>企：2011-2015 中期経営計画「Motion- V」を策定</p>	<p>2011年(H23)</p> <p>1月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p>	<p>工：SUBARU80/2.0 風力発電システム 11 基が御前崎風力発電所で本格稼働開始</p> <p>航：富士重工業と東大、機体破損後の航空機の自動飛行実験に成功</p>